

令和4年度ICT活用教育推進事業報告書 (南知多町)

1 研究実践校

南知多町立内海中学校

2 研究テーマ

地域の実態に即したICT活用教育の実践

3 研究概要

(1) はじめに

本校は、南知多町中学校再編実施計画により、本年度で内海中学校はじめ町内4中学校が閉校、次年度には内海中学校の地に南知多中学校が開校する。南知多中学校の広い校区には日間賀島も含まれ、生徒は船とバスで登下校する。濃霧・高波時には登校できず、オンライン授業は必須である。また、統合前の生徒、保護者、地域の不安は大きく、事前の生徒同士の交流が必要である。こうした南知多町の地域的な実態に応じたICT機器の活用推進と主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を合わせた研究に取り組むこととした。

(2) 研究の方法

- ① ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びとなる授業の定着と、その深化によるオンライン授業のあり方の工夫
- ② 中学校統合に向けた準備として、4中学校間でのオンライン生徒交流の実施
- ③ さまざまな教育活動でのICT機器の活用
- ④ 広い校区ならではのPTA活動などオンライン会議の実施

(3) 計画

- ① 現職教育「主体的に学習に取り組む生徒の育成」にのっとり実践を進める。

8月…………… ICT活用教育の研修会

9月～2月…研究授業実施 ICT機器を活用した授業実践
一人一回ずつ研究授業を実施

12月…………… オンライン授業の進め方の研修会

- ② コンピュータシステム・サービスの保守・運用業者より、オンライン授業実施に必要なGoogle Meetによるビデオ会議や共同編集ができるように研修を実施する。その際、教師のICT機器の活用レベルに応じて研修会や個別の授業支援の形態をとって深める。

6月…………… ICT機器活用能力チェックを全教員に実施

8月…………… ICT機器活用能力チェックの結果を基に現職教育

9月～2月…全13回 授業支援

Google Classroom の活用

資料配付、データの共同編集など

Google フォームを活用した振り返り

ドライブの活用、整理など

11月……………AIドリル実施のための研修

12月……………Google Meet の活用 オンライン授業の進め方の現職教育

③中学校統合に向けた準備として、ICT機器を活用して実践を進める。

4月～……………4中合同各教科部会実施のための連絡調整

6月～8月…4中合同林間学校準備のための実行委員会実施や連絡調整

6月……………4中交流会 タブレット端末を使って交流

6月～……………再編生徒準備委員会実施のための連絡調整や共同編集

7月～……………4中合同部活動のための連絡調整

9月……………4中交流会 3年生日間賀島訪問

11月……………4中交流会 1・2年生日間賀島訪問

11月……………PTA委員会 オンライン会議

12月～……………Google フォームによる欠席連絡開始

1月……………日間賀中生徒とオンライン合同授業

3月……………4中交流会 1・2年生と小学校6年生参加

(3) 実践

①授業改善の取組

教師のICT機器の操作スキルと指導力向上のため、「習うより、慣れろ」を合い言葉にタブレット端末活用の機会を積極的に取り入れた。まず、ICT支援員が作成したICT機器活用能力チェックを教師全員に実施した。用語理解が難しい教師からICT機器が堪能な教師までスキルの差が幅広いため、夏の一斉研修はあえて難易度の高い内容をICT支援員に依頼した。本校の教師だけでなく、統合する中学校の教師にもオンラインで参加できるようにした。その後、活用能力チェックの結果を基にICT支援員の個別支援を受けた。また、ICT支援員から毎月各学年の单元ごとにICT活用授業提案書が配付され、教師は参考にしたり、ICT支援員の訪問時に支援を受けたりして授業実践した。現職教育の一人一授業では、どの教師もICT機器を活用して授業実践した。

【ICT活用授業実践内容】

- Google フォームでの小テスト実施、課題提出
- スプレッドシートを使用した振り返りの提出
- Google フォームを使用した振り返りの提出
- Classroom に資料や動画を配付
- Jamboard を使用した資料提示
- タブレット端末のカメラ機能を使用した写真や動画の撮影
- 動画を撮影し、タイムシフトカメラを使用して動作確認
- Google スライドを使用してのプレゼンテーション
- Jamboard を使用してのグループワーク、発表

- ・Jamboard を使用して二項対立における立場の確認
- ・パワーポイントを PDF にしてモニターに表示して書き込む
- ・ドキュメントを使用した文集原稿や発表原稿の作成
- ・ドキュメントを使用した掲示物作成
- ・A I テキストマイニングを使用した意見集約、全体共有

【道徳での意見集約・全体共有】

【動画撮影して技の確認】

【班での共同編集】



②中学校統合に向けた交流活動

生徒が写真や動画、スライドなど I C T 機器を活用して作成した各地区の郷土紹介を発表して交流を深めた。4 中学校区のよさや違いに気付き、互いに興味をもつことができた。【9月】

日間賀中学校の生徒が内海中学校の生徒に島の観光スポットをオンライン授業で案内して、実際に日間賀島へ3年生が訪問して交流を深めた。【9月】

【日間賀中生の島案内を聞く内海中生】

【日間賀島での交流】



4中合同で活動する林間学校に向けて、準備・実施のための教師間・生徒間の連絡調整には、オンライン会議で積極的に情報を共有した。【6～8月】

【4中学校オンライン会議】

【タブレット端末を使って交流】



夏以降の部活動も4中合同で活動するため、教員間の連絡調整だけでなく、保護者からの欠席連絡についても Google フォームと QR コードを活用して、学校以外の活動場所でも確認できるようにした。【7月～】

統合中学校開校に向けて、校章、校則、学校行事などについて生徒からの意見を集約するために、オンラインでグループワークを行ったり、交流会の振り返りアンケートを Google フォームで行ったりした。【6月～】

島の生徒の学習する場を保障するためにオンライン授業は必須である。授業の様子をカメラで撮影して各家庭に流すだけでなく、グループワークにも参加し、課題配付や提出なども教室にいるときと同じような環境整備を目指した。クラス全体用の Classroom とグループワーク用の Classroom を作成して合同授業を行った。その際には保護者にも学校公開をして、オンライン授業の様子を見ていただいた。【1月】

【日間賀中生が各家庭から授業に参加している様子】



③教育活動でのICT機器の活用

さまざまな教育活動での事前事後のアンケート集約や、意見集約など Google フォームを使って行った。学校保健委員会を実施するために養護教諭が ICT 支援員に支援を受け、事前事後のアンケート作成を行い、集約結果を提示したり、要項を作成したりした。学校評価アンケートについても Google フォームと QR コードを活用して、生徒、教師、保護者向けに行い、集約結果を作成した。欠席連絡については、Google フォームと QR コードを活用した連絡方法も取り入れた。また、生徒会活動においても各委員会からのアンケートや意見集約に生徒が積極的に活用している。

④広い校区ならではのオンライン会議の実施

教師にとって統合中学校の準備のための4中学校教科部会、各指導部会など島を含めて遠くから集まって会議することはとても大変である。連絡調整や情報共有は電話やメールだけでは追いつかないので、オンライン会議で行った。授業で使用する教材の選定や定期テスト作成など、4中学校で共通理解を図りながら情報共有した。また、学校に集まりにくいのは保護者も同じである。PTAの会議もオンラインで行えるように、生徒のアカウントとは別にPTA役員用のアカウントと Classroom を作成した。ルールづくりやマニュアルについては ICT 支援員に作成してもらい環境整備を進めた。

4 成果と課題

(1) 成果

I C T機器は学習ツールであると考え、「習うより、慣れろ」を合言葉に生徒も教師も活用の機会を積極的に設定してきた。I C T機器を使うことへの抵抗感をなくし、使用中に発生するトラブル対応への不安感はI C T支援員の支援により少しでも減らすことに取り組んできた。その結果、各教科、学年、さまざまな活動でI C T機器を進んで活用している。タブレット端末を片手に授業に取り組む姿や、効果的に画面をモニターに映し、分かりやすい授業を心がける姿があたり前に見られるようになった。今では、教師一人一人が自分なりの活用方法を見付け、生徒の学習意欲を高めるためにさまざまな実践に日々意欲的に取り組んでいる。

生徒のI C T機器の操作スキルの習得の速さには驚かされるものがある。生徒の柔軟な発想を拾い上げ、他の生徒たちに広げたことで生徒同士のつながりも深くなり、学習成果がよりよいものになった。また、島の生徒とのオンライン合同授業を保護者に参観していただき、不安解消の一助となった。

統合中学校の準備のための職員間、生徒間、保護者との連絡調整には、オンライン会議が情報共有には欠かせない。遠距離を瞬時につなぐI C T機器の利点が存分に生かされた。自分たちでどんな学校、校風にしたいか、どんな中学校生活にしたいかなど、4中学校の生徒がI C T機器を活用して主体的に対話して深めることができた。

アンケートの集約などは時間短縮、ペーパーレス化にもなり、内容もすぐに数値化したり、グラフ化したりすることで結果を分かりやすく提示することができるので、今後さまざまな活用をしていきたい。

令和5年4月統合中学校開校に向けて、一部のI C T機器の操作に堪能な教師だけでなく、全教師の操作スキルと指導力の向上を図る必要があり、オンライン会議やオンライン授業の操作訓練は生徒や教師にとって技能を習得する機会となった。また、保護者の協力も十分得られた。

(2) 今後の課題

I C T機器を活用した授業づくりには精力的に取り組んだが、効果的に活用した創造的な授業づくりには十分にいたることができてはいない。トラブル対応やセキュリティ対応の面でもまだまだ不十分である。応用的・発展的に活用した実践に今後も積極的に挑戦することで、その効果について検証し、より学習効果上がるように改善を図っていく。多くの実践を教師間で共有し、新たなスタイルの授業づくりに生かしていきたいと考える。

南知多中学校が開校してからも、地域の実態に即したI C T活用を進め、学校・家庭・地域が連携した新しい学校づくりに取り組んでいきたいと考えている。

活用事例 参考資料【オンライン授業の流れ】

QRコードからご覧ください。

